

説明図-① 下部走行体

用意するもの

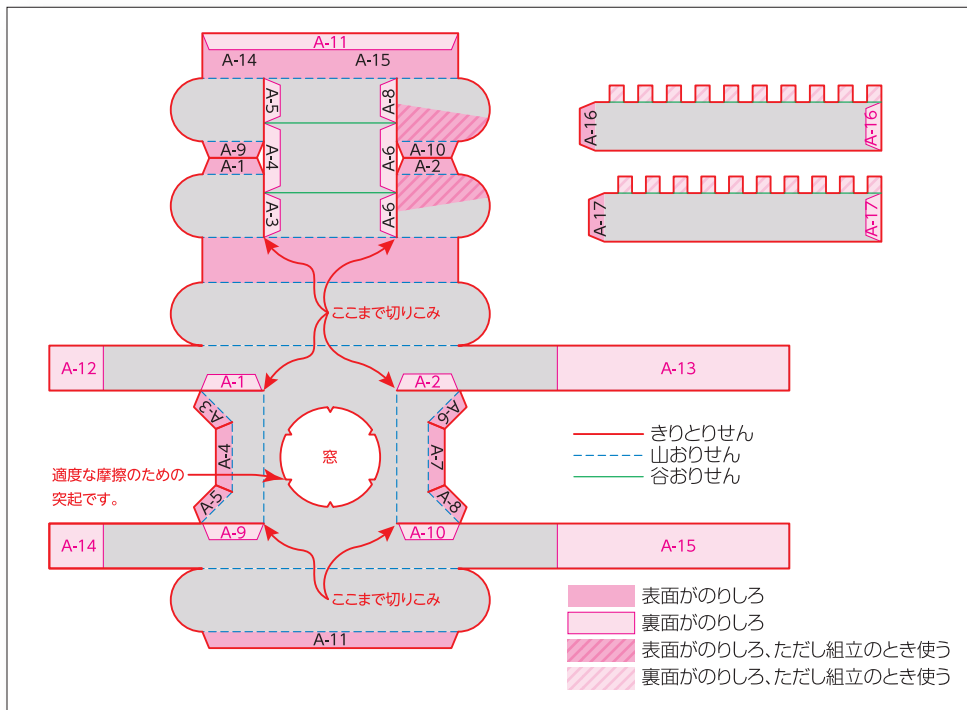
- プリントアウト用紙 (はがき位の厚さの専用紙が最適。見本は写真光沢紙)
- カッターナイフ・定規
- カッターが使えるマット
- 書けなくなったボールペン又は鉄筆
- 紙用接着剤 (又はのり)
- アルミホイル、28cm幅110cm (重さのバランス用) 又は1円玉11枚
- ピンセットその他、竹ペラ・竹串、等自分が使いやすい用具を工夫してみましょう。

始める前に

ペーパークラフトは指示通りに進めると難しいものではありません。しかし、多くの人はずり出来るとして簡単に取っかかりと意外に時間が掛かり途中であきらめる人もあるようです。一日で全部作り上げることは出来ない場合がほとんどです。まず、説明図を最後までじっくり読んで全体の流れを大まかにつかまえます。そして、各パーツをひとつずつ完成させることから始めましょう。それで、全体の四分の一が何時間掛かったかなどで、完成までどれくらい時間が必要かやいつまで完成させてみようと思いがたつとたのしくなると思えます。大人で早い人は2時間位で各パーツの組立ができるでしょう。4つのパーツに分かれていますから一日で各部分が出来上がります。しかし、組み立てるとなると日をあらためる事になるのが普通です。急ぐと、切り間違えたりしてさらに時間がかかります。小学生で一日に集中できるのは3時間位と言われます。一日にひとつのパーツを作ることから始めるのも良いでしょう。

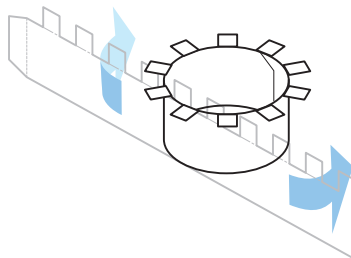


- カッターナイフや竹串を使うときは、手や足を切らないように注意しましょう!!
- カッターナイフや竹串を使うときは、机や床にきずをつけないように注意しましょう!!
- つくり方がわからないときは、おとうさんやおかあさんに相談しましょう。

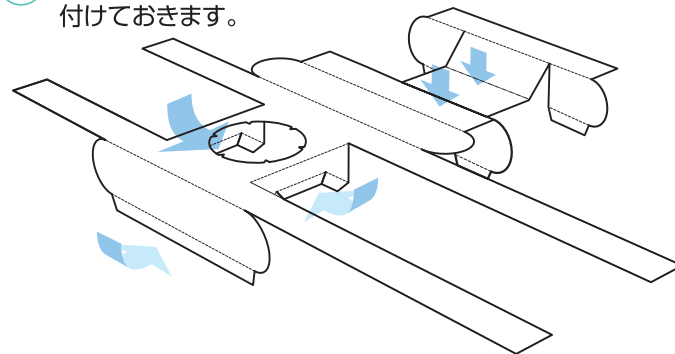


切り抜く前に折りけいを鉄筆と定規などでしっかり付けましょう。切り抜いたら折りけいによって折りくせをつけます。大体の形になる位しっかりつけます。いきなり、のり付けしないで細かく奥まった部分から貼っていく手順をイメージしてからすると失敗が少なくなります。

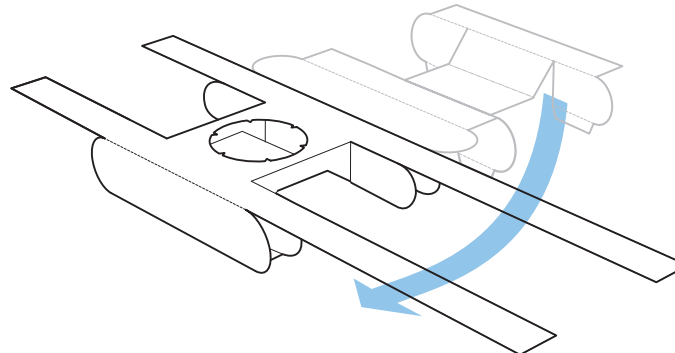
- 1 下部走行体と上部旋回体をつなぐ部品も作っておきます。円筒形に丸めて白いのりしろがはみださないよう正確にはり合わせます。四角い部分は上部旋回体の底に貼りつけるので、外に開いて折っておきます。



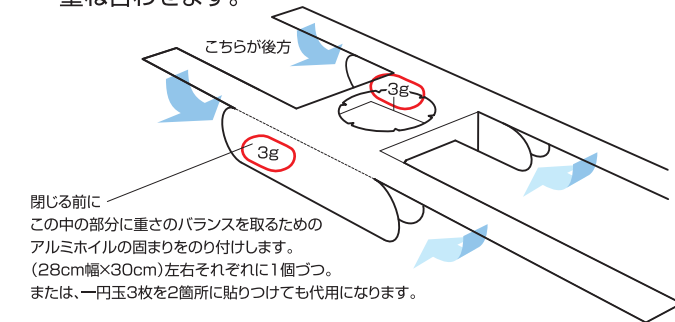
- 2 山おり・谷おりに注意しながら、いったん全体に折りくせを付けておきます。



- 3 のりづけは奥まったところから、広いところへ順に貼っていくとかんたんです。のりしろの番号順にはりつけます。



- 4 最後にシューを巻くようはります。少し長めに作ってありますから、白地が出ないように重ね合わせます。

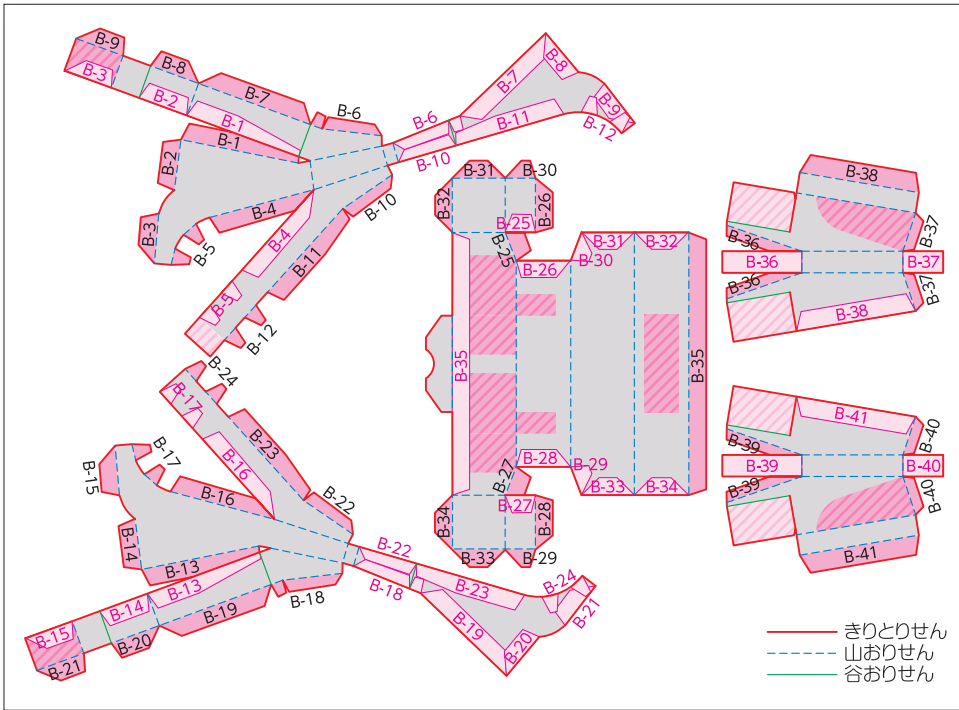


閉じる前にこの中の部分に重さのバランスを取るためのアルミホイルの固まりをのり付けします。(28cm幅×30cm)左右それぞれに1個づつ。または、1円玉3枚を2箇所に貼りつけても代用になります。

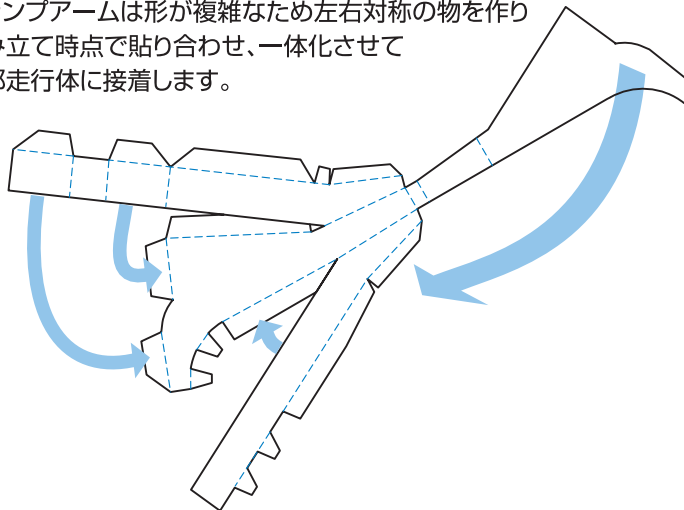
説明図-② クランプアーム

- プリントアウト用紙（はがき位の厚さの専用紙が最適。見本は写真光沢紙）
- カッターナイフ・定規
- カッターが使えるマット
- 書けなくなったボールペン又は鉄筆
- 紙用接着剤（又はのり）
- アルミホイール、28cm幅110cm（重さのバランス用）又は1円玉11枚
- ピンセットその他、竹ペラ・竹串、等自分が使いやすい用具を工夫してみましょう。

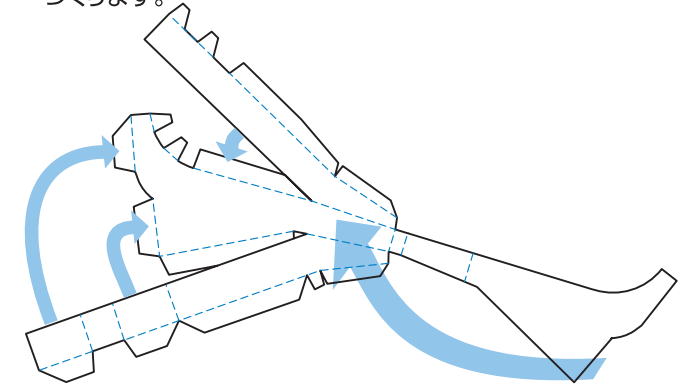
- 表面がのりしろ
- 裏面がのりしろ
- 表面がのりしろ、ただし組立のとき使う
- 裏面がのりしろ、ただし組立のとき使う



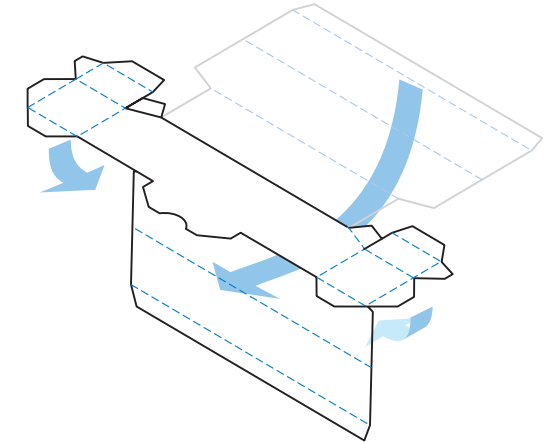
- ① クランプアームは形が複雑なため左右対称の物を作り組み立て時点で貼り合わせ、一体化させて下部走行体に接着します。



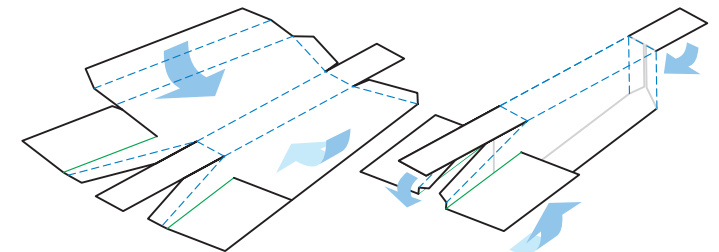
- ② 左記の様に対照的なクランプアームのもう一方をつくります。



- ③ アームを支える部分で比較的単純な長方形に近い形です。



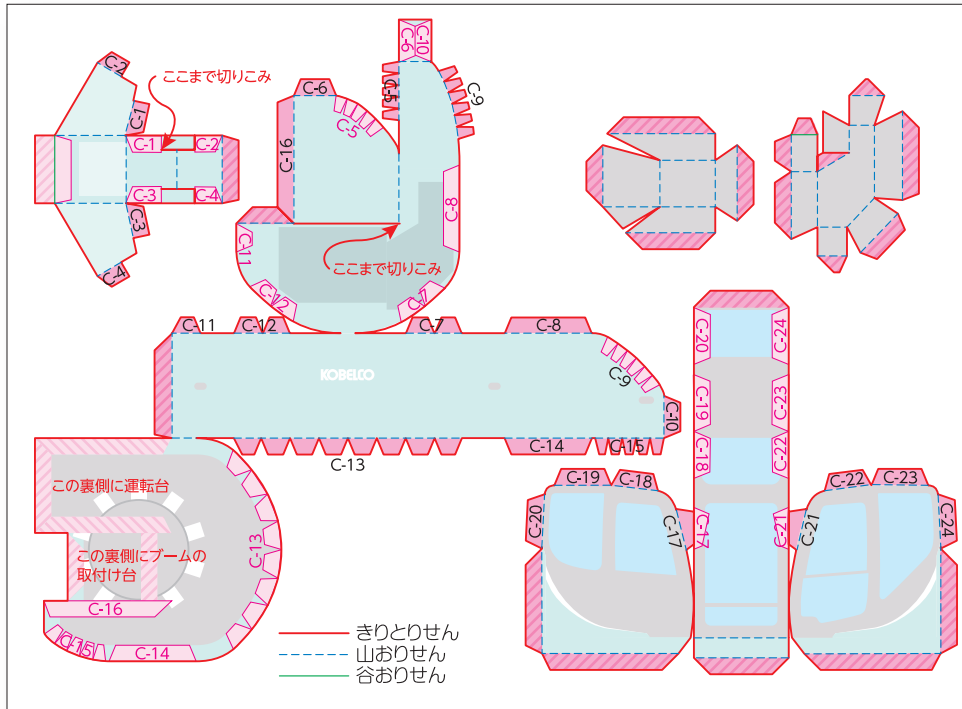
- ④ 下部走行体に取り付ける部分です。貼り付け部分を谷折りで起こします。これも絵柄が対照的になっています。



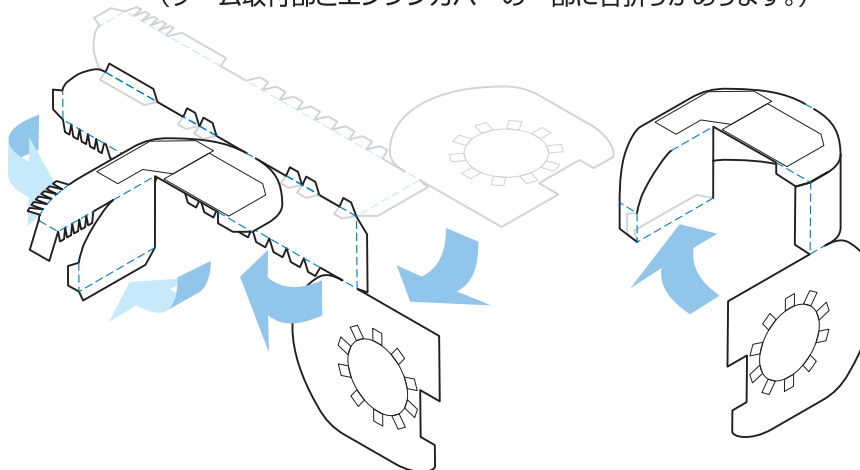
- カッターナイフや竹串を使うときは、手や足を切らないように注意しましょう!!
- カッターナイフや竹串を使うときは、机や床にきずをつけないように注意しましょう!!
- 作り方がわからないときは、おとうさんやおかあさんに相談しましょう。

説明図-③ 上部回転体

- プリントアウト用紙（はがき位の厚さの専用紙が最適。見本は写真光沢紙）
- カッターナイフ・定規
- カッターが使えるマット
- 書けなくなったボールペン又は鉄筆
- 紙用接着剤（又はのり）
- アルミホイール、28cm幅110cm（重さのバランス用）又は1円玉11枚
- ピンセットその他、竹ペラ・竹串、等自分が使いやすい用具を工夫してみましょう。

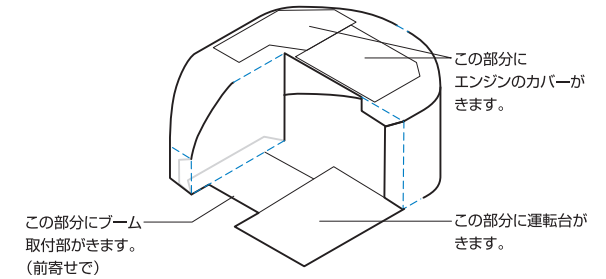


- ① 上部回転体は折りけいがすべて山折りになっています。
(ブーム取付部とエンジンカバーの一部に谷折りがあります。)

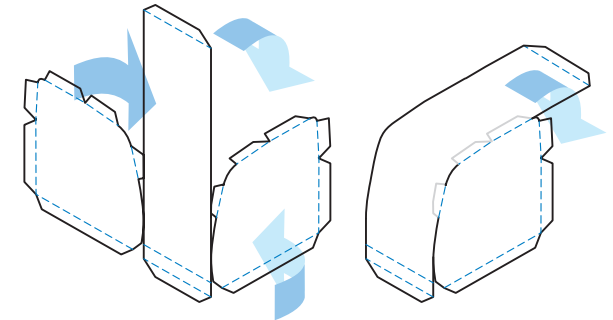


- カッターナイフや竹串を使うときは、手や足を切らないように注意しましょう!!
- カッターナイフや竹串を使うときは、机や床にきずをつけないように注意しましょう!!
- 作り方がわからないときは、おとうさんやおかあさんに相談しましょう。

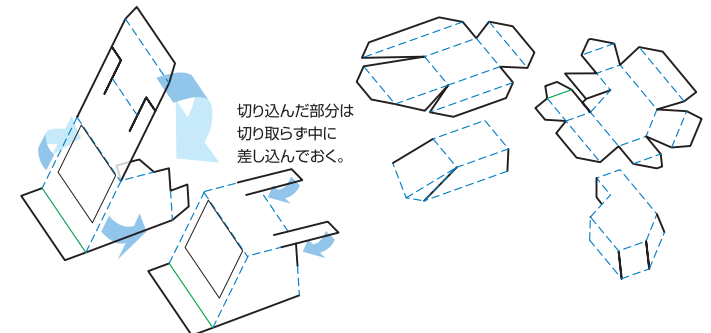
- ② 大体の形が見えて来たら、細部の細かい所からのり付けするとずれが出にくくきれいな仕上がりになります。



- ③ 運転台をつくります。前面と屋根の部分は曲面があります。半径に合わせたさまざまな軸を用意してやわらかいものに押し当ててカーブを付けておきます。



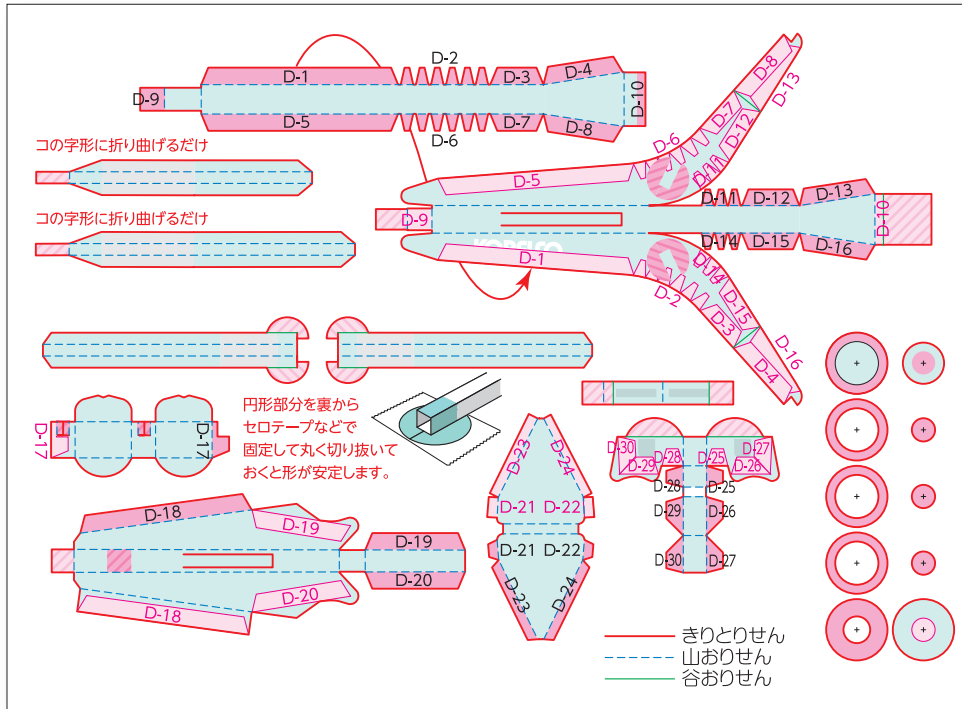
- ④ ブームの取付部分とシリンダーの差し込み部です。さらにエンジンカバー2個で、どちらも簡単です。



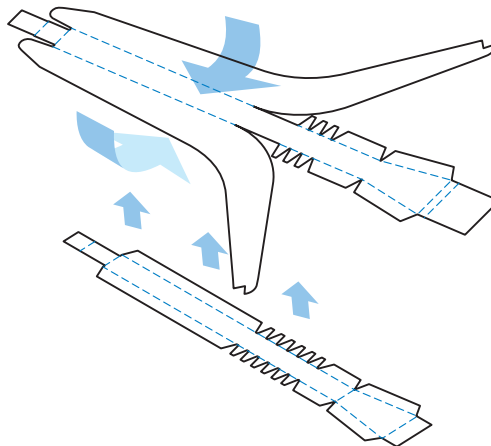
説明図-④ ブーム・アーム・アタッチメント

- プリントアウト用紙 (はがき位の厚さの専用紙が最適。見本は写真光沢紙)
- カッターナイフ・定規
- カッターが使えるマット
- 書けなくなったボールペン又は鉄筆
- 紙用接着剤 (又はのり)
- アルミホイル、28cm幅110cm (重さのバランス用) 又は1円玉11枚
- ピンセットその他、竹べら・竹串、等自分が使いやすい用具を工夫してみましょう。

- 表面がのりしろ
- 裏面がのりしろ
- 表面がのりしろ、ただし組立のとき使う
- 裏面がのりしろ、ただし組立のとき使う

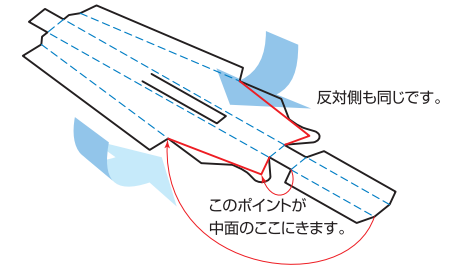


- ① ブームをつくります。3面が一体となっていますが、底面は別に貼り付けます。



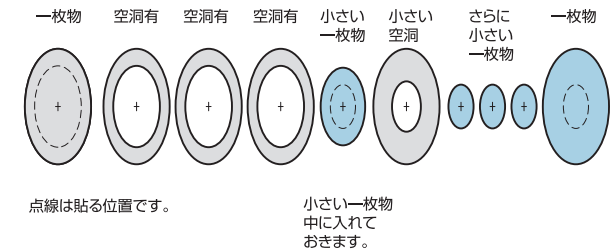
- カッターナイフや竹串を使うときは、手や足を切らないように注意しましょう!!
- カッターナイフや竹串を使うときは、机や床にきずをつけないように注意しましょう!!
- 作り方がわからないときは、おとうさんやおかあさんに相談しましょう。

- ② アームは4面がひとつの用紙につながっています。



- ③ その他、シリンダー関係は縦に三つ折りだけです。細いので、しっかり折りけいをいれる必要があります。

- ④ 最後の難関は、アタッチメントが回転するところです。円形を貼る順番さえ間違えなければ大丈夫です。穴あきの部品と貼り付ける位置をしめた物をまちがえないようにしてください。



グレーの円どうしは貼り合わせます。ブルーの円どうしも貼り合わせます。グレーとブルーはつながっていないので、回転します。先にいれておいた円はグレーの小さい空洞より大きいのでぬけません。回転できるか、確認ができればアタッチメントに貼ります。1回目できたら大拍手です。根気よくやってみましょう。

説明図-⑤ 全体組み立て

アームの切り込みに差し込みます。切り込みは中に押し込みます。

ブームの切り込みに差し込みます。切り込みは中に押し込みます。

貼り付け面が円形になるよう両面テープなどで形作って貼ると簡単です。

下の差し込み口が縦長になっていますから貼り付けてもブームは動かせます。

左右は対称になっています。

切り込み片は中に押し込みながら差し込みます。

図柄の位置に合わせて貼り付けます。

貼り付け位置は絵柄を合わせる様に注意します。

左右は対称になっています。

左右貼り付けてから合わせて組み立てます。

クローラの位置が記されている方が外側になります。

大きい方が回転側で底の図柄の位置に貼り付けます。

この部分に重さのバランスを取るためのアルミホイールの固まりをのり付けします。(28cm幅×50cm)約5g または、一円玉5枚でも代用になります。この部分は完成してからでも調整できます。

小さい方がクローラ側中に貼り付けます。円形の穴とは少し隙間をあけます。

破線部分にクローラがくるよう貼り付けます。

